

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	17H06116	研究期間	平成29(2017)年度 ～令和3(2021)年度
研究課題名	近代アジアにおける水圏と社会経済—データベースと空間解析による新しい地域史の探求	研究代表者 (所属・職) <small>(令和5年3月現在)</small>	城山 智子 (東京大学・大学院経済学研究科(経済学部)・教授)

【令和2(2020)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、モンスーンと季節的降雨という気候と、海や河川からなる水に囲まれた地形という、域内社会経済をあいまって規定する条件に関する3つの問題群「自然環境・現象」、「生産・生活」、「移動・流通」のデータベースを構築し、空間解析によって気候・水圏・社会経済の相関関係からアジア域内の共通性と多様性に歴史的考察を加える。新しい分析手法・アプローチにより、国別の歴史やレジーム論を再検討し、現地・国家・地域が交差する多角的歴史像を探求するものである。歴史研究者と工学者との協働を順調に進め、文系中心の経済史研究では気づかない問題提起を行っていること、降雨流出氾濫モデル、仮想水貿易など方法論的な提案を行っていること、1931年長江大氾濫や1876-78年インド旱魃、1918-20年の米不足などの重点的な集団事例研究が行われていることは高く評価できる。一方、これまでの研究によって相当量のデータベースや地図が蓄積されたものと思われるものの、一部の地図情報を除き、いまだホームページ上で公表するまでには至っていない。今後、本研究で得られた研究成果について、学術誌や国際学会等での発表等を含め、研究成果の可視化が望まれる。</p>	

【令和5(2023)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、十分ではなかったが一応の成果があった。
B	<p>本研究は、アジアを一つのまとまりとして捉えようとする時、地域が共有する自然環境の特徴として「モンスーンと季節的降雨」と「水系に囲まれた地形」という水をめぐる2つの条件があるという観点から、気候・水圏・社会経済の相関関係に着目して域内の共通性と多様性に歴史的考察を加え、多角的歴史像を探求する社会経済史と工学分野による文理融合研究である。個々の水圏の生産・生活に関する「自然災害と社会変動」と、水圏内を結びつける流通・移動に関する「水圏内のつながりと仮想水貿易」について、複数の事例研究を結実させ、気候・水圏への対応から照射される近代アジア社会の構造と動態を浮き彫りにすることにより、アジア社会経済史の学術的発展に貢献したことは高く評価できる。</p> <p>ただし、データ収集とDB化、空間解析と分析、研究成果の公開という3プロセスを繰り返しながら、一つの研究成果パッケージとして横断検索可能な形で「多様な情報を共通のフォーマットの下で統合した空間情報DBという新たな研究リソース構築」をして国際的に発信し、学術的・社会的貢献をすることと定めた当初目標の到達という点では十分ではなかった。</p>